歌浦っ子だより（学校だより）

「やさしい心　夢かがやく　歌小の子どもの育成」

平成30年11月15日　　文責：校長　内野義和

小学校音楽発表会

１１月８日（木）にアルカス佐世保で小学校音楽発表会がありました。

市内の全小学校が出場しますので、８日（木）午前・午後、９日（金）午前・午後と4つに分かれて行われます。本校は１日目の午前でした。

子どもたちは、緊張していたようでしたが、リコーダーのきれいな響き、美しい歌声を大勢の観客に届けることができました。私も写真を撮りながらではありましたが、感動して聴きました。終わって席に戻ってきたときの表情には満足感が見えました。大きな舞台でたくさんの観客の前で演奏したり歌ったりしてよい体験ができました。

伴奏をしていただきました森田先生には、練習から何度も学校へ来ていただきました。また、鹿町文化祭でも伴奏していただきました。感謝申し上げます。会場には保護者の皆様も来ていただきました。ありがとうございました。

『子どもが危ない！　スマホ社会の落とし穴』から１

衝撃的な本を読みました。清川輝基・内海裕美著『子どもが危ない！　スマホ社会の落とし穴』（2018年10月　少年写真新聞社）です。

昨年から、鹿町小学校の井上前校長先生と、鹿町の子どもにとってメディアは敵ですと言い合っていました。この本を読んで、その思いがさらに強くなり、鹿町の子どもを守るためにもこれから手を打っていかなければならないと思いました。今後、何回かに渡って内容をご紹介するとともに、学校、家庭でどうすればよいかともに考えていければと思います。

１　発達期の子どもが危ない

（１）現在の子どもたちは、人類誕生以来**幼少期の外遊びが最も少ない世代**と　なっている。（テレビの登場以来、テレビゲーム、ビデオ、パソコンと電子映像機器が増えるたびに、外遊びは減少。ケータイが登場し、スマホ、タブレットが子どもたちの手にも渡るようになり、外遊びの減少は一段と加速。）

（２）スマホ漬けが始まった今、**歩行回数はさらに減少**し、５歳児では５０年　前の3分の１の５０００歩ほど。小学生でも１万歩歩く子どもは珍しくなっている。

（３）「足」が育つのには、幼少期から小学校中学年くらいまでの時期にしっかり歩くことが絶対に必要。**歩かない限り「足」は絶対に育たない**。

（４）わが国が、超高齢化社会に向かおうとしている今、転倒しての骨折、車いす生活のなどの**社会的リスクをできる限り減らすという意味でも、子どもたちの「足」を育てる場所と時間をどう確保するかは重要な問題**。

（５）**子どもの「目」の発達には、１日最低２時間、屋外で陽の光を浴びることが不可欠**だということが最近の眼科学会では定説。

（６）眼球を左右に動かす筋肉も、遠くや近くに焦点を調節するための筋肉も、乳幼児期からの外遊びの中で、動く鳥やトンボや蝶を目で追いかけたり、足元のアリを見つめたり、といった体験を重ねる中で育っていた。**スマホやタブレット、ゲーム機などは、そうした「目」を育てる豊かな環境から子どもたちを遠ざけてしまう**ことになった。

（７）ますます外遊びが減少している今、**筋肉や身体操作能力のレベル低下**が一段と進行するのは確実。（渾身の力をふりしぼる機会がほとんどないから。）

（８）室内でのスマホ、タブレット、ゲーム機で**高度な触覚、嗅覚が育つことは絶望的**。（外遊びで、空気の流れ、木や葉っぱや土や石、水の感触や多様な匂いを体験しながら、触覚や嗅覚は鋭く豊かに育つ。）

以上見てきましたように、**スマホ漬けで外遊びが減少すると、足の力、目の力も育たず、低下するということでした。また、筋肉や身体操作能力のレベルも低下し、高度な触覚、嗅覚が育つのにも影響するとのことでした。**

海、山と自然豊かな鹿町です。ぜひ**親子で積極的に外遊び**を行ってください。また、**登校時、車での送りはやめるように**してください。**やむを得ず車で送ってくるときは、校門近くではなく、少しでも歩かせて**ください。（安全な場所で降ろし、歩道を通学できるようにしてください。大加勢バス停付近ですと、交通安全指導員の吉浦さんもいらっしゃいますので安全ですし、バス通学の子どももいますので、安心して一緒に通学することができます。）＜大雨などの際は校門近くの安全な場所で降ろしてください。＞

本校は市内でも唯一、朝からランニングを行っています。安全に気をつけながら、今後も週３回させていきます。また、昼休み、運動場や鹿町の森での外遊びもさらに奨励していきます。